

学報

2013年 8月 Vol.672



第2回農学系博士教育国際連携円卓会議及び
農学系研究国際シンポジウム2013
(7月2日～4日)

岐阜県高等学校長協会と岐阜大学との懇談会を開催	1
第2回農学系博士教育国際連携円卓会議及び農学系研究国際シンポジウム2013を開催	2
東南アジア及び南部アジアの協定大学の代表者が学長を表敬訪問	3
第2回留学生センターラウンジチューター企画“七夕まつり”を開催	4
第37回岐阜大学フォーラム「企業経営から見るリーダーに求められる要件」を開催	5
スプラス・マレット大学（インドネシア）と大学間学术交流協定を締結	5
教育コンソーシアム形成プログラムの事前調整に係る協定校視察を実施	6
仏国テレコムパリテックの学生9名が工学部を訪問	7
海外渡航における危機管理オリエンテーションを開催	8
男女共同参画推進室が理系女子高校生を対象に研究室見学会を実施	8
第26回岐阜シンポジウム「エネルギー問題を考える スマートグリッドによる次世代エネルギーシステム」を開催	9
安全保障貿易管理研修会を開催	10
薬物乱用防止セミナー講演会「違法ドラッグはこんなに危険」を開催	10
表彰受賞者	11
産学連携の実施状況	11
外国人研究者の受け入れ	12
諸会議	12
主要日誌	14
人事異動	15

岐阜県高等学校長協会と岐阜大学との懇談会を開催

本学では、教育に関する課題や高大連携に関する意見交換のため、岐阜県高等学校長協会との懇談会を開催し、学長、理事、副学長、学部長等が出席している。

今年度は7月2日（火）に18名の校長を本学に迎えて開催し、森学長、丹羽高等学校長協会会長の挨拶の後、本学の概況及び各学部の平成25年度入試の結果や現況、教養教育や初年次教育並びに男女共同参画に関連した高大連携事業の説明に続き、高等学校における生徒の進路選択、高等学校教員養成の取組み状況、入学後の学生生活の実態、入試等についての質疑応答を含め活発な意見交換が行われた。

懇談会の後、総合情報メディアセンター及び図書館を見学した。



挨拶する森学長



活発な意見交換が行われた懇談会

第2回農学系博士教育国際連携円卓会議及び農学系研究国際シンポジウム2013を開催

大学院連合農学研究科（UGSAS-GU）は、7月2日（火）から4日（木）にかけて東南アジア諸国及び南アジア諸国地域の5か国10協定大学及び構成大学の静岡大学を含め12大学による「The 2nd UGSAS-GU Roundtable & Symposium 2013」（第2回農学系博士教育国際連携円卓会議及び農学系研究国際シンポジウム2013）を開催した。

初日の7月2日（火）は、岐阜都ホテルにおいて、東南アジア諸国及び南アジア諸国地域を中心とした本学との海外協定校10大学から招へいた農学・生物学研究科長等と若手研究者が、本学大学院連合農学研究科と一緒に「農学系博士教育の質の保証と社会貢献の向上を目指す国際連携活動」について協議する円卓会議を行った。

2日目の3日（水）は、応用生物科学部第1会議室において、海外のアカデミアで活躍する本学大学院連合農学研究科修了生等の若手研究者を講師とした生物・農学系研究シンポジウムを開催した。シンポジウム中に、10大学の代表者は森秀樹学長を表敬訪問し、懇親を深めた。シンポジウム後、本学大学院連合農学研究科学生の企画運営によるホームカミングデーパーティーを開催し、海外からの参加者やインダストリー部会参加者に対して、学生の研究報告をパネルで紹介したほか、同研究科修了生と質疑応答を実施し、交流を深めた。

3日目の4日（木）は、河川環境楽園・自然共生研究センターを見学し、センター内の実験河川を歩きながら自然を体感した。その後、郡上八幡を訪れ、生活に密接に結びついた水との関わりを実感した。



ラウンドテーブルに参加した各国からの参加者



シンポジウムで講演する
カセサート大学ジタナ准教授



ホームカミングデーに出席した修了生ら



自然共生研究センターで熱心に聞き入る参加者

東南アジア及び南部アジアの協定大学の代表者が学長を表敬訪問

7月3日(水)、国際週間の行事の一環として「The 2nd UGSAS-GU Roundtable & Symposium 2013」が本学大学院連合農学研究科主催で行われ、参加したダッカ大学(バングラデシュ)、アッサム大学(インド)、アンダラス大学(インドネシア)、ボゴール農科大学(インドネシア)、ガジャマダ大学(インドネシア)、スプラス・マレット大学(インドネシア)、チュラロンコン大学(タイ)、カセサート大学(タイ)、ハノイ工科大学(ベトナム)、インド工科大学(インド)の代表者10名が、森学長を表敬訪問した。本学からは、鈴木連合農学研究科長が同席した。

これらの大学は全て本学の大学間、又は部局間学術交流協定大学であり、本学大学院連合農学研究科が事務局を担う「南アジア地域における農学系博士教育国際コンソーシアム」の加盟大学である。

今回の訪問では、本学と各大学との交流、また、岐阜大学ダッカ事務所のダッカ大学構内への移設、スプラス・マレット大学と本学との大学間学術交流協定の締結に向けての状況説明等、各協定大学間との個別の状況についての協力事例が共有された。引き続き、これに先立って、前日の2日(火)に行われたラウンドテーブルにおいて議論がなされた、同コンソーシアム活動としての加盟大学間におけるデュアル Ph D. プログラムやサンドイッチプログラムの実現性を含めた今後の展望について、森学長に報告するとともに意見交換を行った。本学と各大学との教育・研究における国際連携活動の実りある展開が期待される。



森学長(前列中央)、鈴木連合農学研究科長(後列左)と各大学の代表者ら

第2回留学生センターラウンジチューター企画「七夕まつり」を開催

7月3日（水）、留学生センター交流ラウンジにおいて、ラウンジチューターの企画による「七夕まつり」を開催した。今年1月に開催した「New Year Event 日本のお正月」に続き2回目の開催である。日本の「七夕」は、ほとんどの留学生にとっては初体験であるが、最近は日本の家庭でも七夕の行事を行うことが少なくなり、日本人学生にとっても懐かしい行事となった。

日本の「七夕」は、ほとんどの留学生にとっては初体験であり、当日は、留学生、日本人学生等約60人が参加し大盛況となった。サマースクールで本学に来ているスウェーデンや韓国の留学生も参加した。

最初にチューターから七夕まつりについて簡単な説明があった後、用意した短冊に筆と墨を使い、日本語で願い事を思い思いに書き、願いがかなうよう一人一人笹に付けていった。「日本語がうまくなりますように」、「日本で進学したい」、「良い成績がとれますように」等々留学生らしい願い事が多かった。七夕飾りにする折り紙では、留学生、日本人学生が一つの輪になり、日本人学生が留学生から斬新な折り紙細工を教えてもらったり、留学生が日本人から鶴や舟の折り方を教わったりと多いに盛り上がった。最後に記念写真を撮り、イベントを終えた。

このイベントは、留学生にとっては日本文化の一端に触れる機会となり、日本人学生にとっては留学生と出会う機会となった。これを契機に両者の交流がますます活発になっていくことが期待される。

なお、同ラウンジは、留学生の学習支援（主に日本語・日本文化学習）や留学生と日本人学生との交流の場として活用し、本学国際交流の推進を図ることを目的に設置されたもので、平日午後にはラウンジチューターが待機し、訪れた留学生の学習支援に当たっている。



七夕飾りをバックに記念写真



留学生と日本人学生との和やかな交流風景



短冊に願いを込めて

第37回岐阜大学フォーラム「企業経営から見るリーダーに求められる要件」を開催

7月4日（木）、本学講堂において、第37回岐阜大学フォーラム「企業経営から見るリーダーに求められる要件」を開催し、教職員、学生、一般市民など約200名の参加があった。

森学長の挨拶の後、中部・関東で食品スーパーマーケット・ホームセンターなどを展開している株式会社パローの代表取締役社長である田代正美氏が講演を行った。講師の田代氏は、株式会社パローが成長していく上で、どのようなビジネスモデルを持ってきたかについて話された。

アメリカのスーパーマーケットについて研究し、物流の仕組みに着目し、どうしたら流通を制することができるのかを考えてきたこと、企業経営にあたり、常に仮説を立てながら進めてきたことについて述べ、最後に、「企業経営はこれからどんどん難しくなるが、どういう仮説を立てて、経営していくかが重要になる。そして、能力の限界を自ら決めないこと。やる気があれば、能力は無限である」と来場者へメッセージを贈った。

来場者は講演に熱心に耳を傾け、非常に意義深い内容のフォーラムとなった。



講演する田代氏

スブラス・マレット大学（インドネシア）と大学間学術交流協定を締結

本学は、平成25（2013）年7月8日（月）スブラス・マレット大学と大学間学術交流を締結した。

スブラス・マレット大学は、インドネシアのスラカルタ市周辺に散在していた5大学を現在の地に統合し、1976年に創設された比較的歴史の浅い大学である。中央ジャワの古都ソロ（スラカルタ）に位置することもあり、人気の高い大学として有名で、学生のための宿舎、医療保健センター、スポーツ関連施設、図書館、福利厚生施設等も充実している。また、情報関連施設の整備も進み、各学部でインターネットによるeラーニング教育も実施されている。

平成24（2012）年3月に本学応用生物学部及び連合農学研究科とそれぞれ学部間協定を締結し、学部生・大学院生を対象に連携講義等を実施している。

なお、この協定により本学の大学間協定は45大学となった。



スブラス・マレット大学 - 岐阜大学 大学間学術
交流協定締結



調印式参加者記念撮影

教育コンソーシアム形成プログラムの事前調整に係る協定校視察を実施

連合農学研究科は、7月8日（月）から9日（火）にかけて、鈴木文昭研究科長ほか4名の教員及び連合農学係3名の事務職員が、インドネシアにある協定校のスプラス・マレット大学及びガジャマダ大学を視察した。

初日の7月8日（月）のスプラス・マレット大学視察では、大学内の見学（教室・実験施設・研究室）を行った後、鈴木研究科長による連合農学研究科の紹介があったほか、本学保健管理センター教員及び連合農学係3名の事務職員はメディカルセンターの視察を行い、副センター長から在学中の学生の健康管理について説明を受けた。さらに、国際交流センターでの留学生の受入れ状況・生活環境の説明を受けた。

2日目の9日（火）のガジャマダ大学の視察では、ガジャマダ大学農学部長ジャムハリ氏から学部の紹介及び学科長7名による学科の紹介があった。大学内の見学（教室・実験施設・研究室）に続き、鈴木研究科長による連合農学研究科の紹介があった後、国際交流センターを訪問し、今後のコンソーシアム活動について情報交換を行った。

2日間の協定校の視察を終え、本学から派遣する学生の受入れ体制及び研究施設や学生の生活環境の実態を把握でき、活発に交流を深めた。



スプラス・マレット大学メディカルセンター視察



ガジャマダ大学農学部長及び学科長との交流



ガジャマダ大学での鈴木研究科長による研究科紹介

仏国テレコムパリテックの学生9名が工学部を訪問

7月12日（金）、フランス国立高等電気通信大学テレコムパリテックの学生9名が本学工学部を訪問した。六郷工学部長、速水副学部長からの挨拶及び工学部の概要説明の後、電気電子・情報工学科情報コースと機械工学科知能機械コースを見学した。各研究室では、所属する学部学生、大学院生による英語でのプレゼンテーションを聞き、研究対象の機器の紹介を受けた。テレコムパリテックの学生らの専門分野と重なる研究もあり、プレゼンテーションに対して質疑を行うなど高い関心を寄せていた。最後に、工学部の日本人学生約30名との懇談会があり、フランスと日本の大学受験制度の違いなどのテーマについて話し合うなど、英語や日本語を交えた交流を楽しんだ。

今回の訪問は、岐阜日仏協会が主催する文化交流の一環で、テレコムパリテックの学生は7月4日から24日まで日本語の習得と文化交流を目的に岐阜県内にホームステイし、岐阜滞在後は日本各地で企業研修を行う。

テレコムパリテックは、1878年に設立された情報技術分野で有数のフランスのグランゼコール（高等専門教育機関）の1つである。生徒数1,460人のうち48パーセントを40カ国からの外国人学生が占める国際的な教育機関でもある。



研究室訪問



質疑応答の様子



集合写真

海外渡航における危機管理オリエンテーションを開催

7月17日（水）、交換留学やサマースクールへの参加予定者を中心とした、海外渡航へ興味を持つ学生を対象に、海外での危機管理や安全対策に関するオリエンテーションを開催し、約60名の参加があった。

同オリエンテーションは、学生の海外渡航時の危機管理を専門的に扱う海外留学生安全対策協議会の服部誠理事を招いて実施したもので、日本と海外諸国の生活・文化・犯罪率の違いなどの紹介のほかに、具体的な危機事象例を挙げ、万一、自分が遭遇した場合にはどう対処するか、といった意見を学生に促すなど、現時点では特に意識がない学生に対しても危機管理意識を啓発する内容となった。

こういったオリエンテーションは、本学としては初の取り組みであり、アンケート結果などからも、今後、海外渡航する際には危機管理には十分に気を付けたい、といった意見が多くあり、非常に好評を博した。



学生に遭遇時にどう対処するつもりかを聞く服部理事

男女共同参画推進室が理系女子高校生を対象に研究室見学会を実施

男女共同参画推進室は、7月18日（木）、岐阜県立長良高等学校2年生の理系女子生徒48名を対象に、研究室見学会を実施した。これは、本学男女共同参画推進室の取組である「サイエンス夢追い人育成プロジェクト（女子大学院生による出前講義）」の発展型として実施したもので、出前講義に参加して研究に興味を持った理系女子高校生に対し、研究をより身近に感じてもらい、抱いた興味・関心を一層深めてもらうことを目的としている。

女子高校生は、教育学部理科教育講座（物理学、生物学）、工学部化学・生命工学科生命化学コース、電気電子・情報工学科情報コース、応用生物科学部生産環境科学課程応用植物科学コースの5研究室を、グループに分かれて見学した。各研究室では、教員と女子大学院生によって研究内容の紹介が行われ、女子高校生にとっては大学での研究活動を学ぶとともに、理系分野で活躍する「先輩（女子大学院生）」と接することで自身の将来像を考える良い機会となった。

見学後に実施した女子大学院生と女子高校生との交流会では、高校生から、大学生活や将来のキャリアなどについて多くの質問が投げかけられ、大変盛況な会となった。



研究内容の紹介

第26回岐阜シンポジウム「エネルギー問題を考える スマートグリッドによる次世代エネルギーシステム」を開催

本学は、環境・生命科学・情報・教育などの21世紀の重要テーマについて積極的に取り組み、その成果を社会に発信することを目的として、「岐阜シンポジウム」を年2回開催している。第26回は「エネルギー問題を考えるスマートグリッドによる次世代エネルギーシステム」をテーマに、7月22日（月）、じゅうろくプラザにおいて開催した。本学では、平成18年度より未来型太陽光発電システム研究センターを設置しており、高効率・大面積・長寿命・高信頼性・低コストを実現させるための太陽電池の開発研究を行うとともに、発電施設として実用化するためのシステム開発を行っている。今年度は、生物資源や教育分野も取り込んだ新たな研究部門も立ち上げたこともあり、県内外の行政担当者や、企業関係者、教育関係者より約200人の参加があった。

午前に、「JST 清流の国ぎふエネルギー・環境科学ネットワーク」の成果報告会があり、ネットワークの各団体より報告があった。

午後からの講演会では、森学長の挨拶の後、東京大学大学院情報理工学系研究科江崎浩教授より、「スマートグリッド最前線」と題した基調講演があった。東京大学でのスマートビル・スマートキャンパスに向けた活動の経験「全学での電力使用量の見える化／見せる化を行い、約30%のピーク電力量の削減、約20%の総電力量の削減に成功」を整理しながら、今後のスマートグリッド・スマートインフラのロードマップを解説する講演であった。次に、タイ太陽光発電企業組合会長であるドゥーシット氏より、「急速に進むタイのメガソーラー」と題した基調講演があった。急速に進むタイのメガソーラーについて、その環境的・政策的な理由を解説するとともに、中部電力株式会社がタイで太陽光発電事業を開始する等のホットな話題もあり、タイ近隣諸国へのメガソーラーの拡大も含めて東南アジア全域での展開に関して解説した。また、本学工学部小林智尚教授より「気象データを用いた太陽光発電量予測技術」と題した講演があった。

IT など最新の情報通信技術や、最先端の天気予報技術などを駆使した今後のエネルギーシステムに期待を募らせる講演会となった。



講演する江崎教授



シンポジウムの様子

安全保障貿易管理研修会を開催

7月24日（水）、一般財団法人安全保障貿易情報センターの山本信行氏を講師に招き、全教職員を対象とした安全保障貿易管理研修会を開催した。本研修会は、安全保障貿易管理規程の遵守と最新の規制情報の周知徹底を目的として、毎年1回実施している。第4回目となる今回は54名の教職員が参加した。

講演に先立ち、輸出管理統括責任者の小見山学術研究・情報・国際戦略担当理事より、「教職員一人一人が輸出管理を意識して教育・研究活動に取り組んでもらいたい」と本研修会の趣旨が述べられた。

講演では、我が国における輸出管理の概要に加え、大学固有の輸出管理の問題を中心に、外国人研究者や留学生の受け入れに係る注意点が説明された。また山本氏は、提供が容易な役務取引（技術提供）が見落とされがちである点を特に指摘し、「技術の提供は貨物の輸出と異なり、税関等による第三者のチェックが及びにくく、電子メールやインターネットを通じて容易に技術移転できることから、提供者本人の輸出管理に関する理解を深める必要がある」ことを強調された。

安全保障管理部署では平成25年4月より、輸出管理に関するホームページ（学内専用）の運用を本格的に開始しており、本研修会の資料をはじめ、輸出管理に関する最新情報を提供している。



山本氏による講演

薬物乱用防止セミナー講演会「違法ドラッグはこんなに危険」を開催

8月1日（木）、平成25年度岐阜県薬物乱用防止出前講座を、岐阜県健康福祉部薬務水道課薬物乱用防止指導員の伏屋明彦氏を講師として、薬物乱用防止セミナー講演会「違法ドラッグはこんなに危険」と題して開催した。

当日は、本学学生の他、学生相談室員、キャンパスライフヘルパー及び男女共同参画推進室員等、約40名が参加した。

講演では、具体的な薬物の種類、薬物乱用が人体や社会に及ぼす影響等について説明があった。参加者から活発な質疑応答があり、関心の高さがうかがえ、学生及び教職員にとって大変有意義な講演会となった。



講演する伏屋氏

表彰受賞者

米国電気電子学会 (IEEE) ・米国機械学会 (ASME) の学術雑誌
 [IEEE/ASME TRANSACTIONS ON MECHATRONICS] Best Paper Award

受賞者：川崎 晴久 工学部教授
 伊藤 聡 工学部准教授
 毛利 哲也 工学部准教授

論文名：Development of a Hand-Assist Robot with Multi-Degrees-of-Freedom for Rehabilitation Therapy
 (手のリハビリテーションセラピーに向けた、多自由度のハンドアシストロボットの研究開発)

受賞日：平成25年7月11日

一般社団法人日本機械学会 環境工学部門 研究業績賞

受賞者：神原 信志 工学部教授
 功績概要：環境工学に関わる学術の発展に貢献
 受賞日：平成25年7月11日

産学連携の実施状況

○共同研究 (平成25年7月契約分)

部 局 名	研究代表者	企 業 等 名
教 育 学 部	今 井 一	(株) 田中金属製作所
医学系研究科	湊 口 信 也	大塚製薬 (株)
医学部附属病院	伊 藤 善 規	ツキオカフィルム製薬 (株)
工 学 部	仲 井 朝 美	村田機械 (株)
〃	河 瀬 順 洋	川崎重工業 (株)
〃	〃	東光 (株)
〃	北 出 幸 夫	ツキオカフィルム製薬 (株)
〃	上 田 浩	(株) 豊田中央研究所
〃	古 屋 耕 平	トヨタ自動車 (株)
〃	吉 田 敏	花王 (株)
〃	國 枝 稔	ジェイアール東海コンサルタンツ (株)
〃	松 村 雄 一	(株) デンソー
応用生物科学部	北 川 均	日清ペットフード (株)
〃	早 川 享 志	磐田化学工業 (株)
連合創薬医療情報研究科	赤 尾 幸 博	アピ (株) / 岐阜市
金型創成技術研究センター	山 下 実	イイダ産業 (株)
総合情報メディアセンター	内 田 裕 市	ジェイアール東海コンサルタンツ (株)

○受託研究

(平成25年7月契約分)

部 局 名	研究代表者	企 業 等 名
医学系研究科	江 崎 孝 行	経済産業省
〃	〃	公益財団法人とかち財団
〃	湊 口 信 也	(独) 医薬基盤研究所
〃	塩 入 俊 樹	(株) ユー・スタッフ
医学部附属病院	伊 藤 芳 毅	京セラメディカル (株)
工 学 部	國 枝 稔	一般財団法人名古屋高速道路協会
〃	山 縣 裕	公益財団法人岐阜県研究開発財団
〃	〃	公益財団法人中部科学技術センター
応用生物科学部	寺 本 好 邦	ヤマハリピンクテック (株)
〃	木 村 正 信	国立大学法人三重大学

外国人研究者の受け入れ

受入部局	氏 名 (国 名)	所属・職名	期 間	研 究 題 目
応用生物科学部	李 哲 (中国)	瀋陽師範大学 講師	25. 7. 1 ~ 25. 9. 30	小麦胚芽油の利用に関する研究

諸会議

<p>◇ 第4回教養教育推進センター業務実施委員会 7月1日(月) 議 題 1. 教育推進・学生支援機構の設置について</p> <p>◇ 第405回役員会 7月4日(木) 議 題 1. 教育職員の人事(応用生物科学部:教授2) について</p> <p>◇ 第406回役員会 7月11日(木) 議 題 1. 平成25年度執行計画について 2. 業務達成基準適用事業の認定について 3. 特任教員雇用事前協議について</p>	<p>4. 教育職員の人事(医学部附属病院:准教授1) について</p> <p>5. ポイント外教育職員の配置について</p> <p>◇ 第4回部局長・部長会 7月11日(木) 事 項 1. 平成24年度監事意見書について</p> <p>◇ 第4回大学教育委員会 7月16日(火) 議 題 1. 教育推進・学生支援機構の設置について 2. 平成26年度学年暦について 3. 平成26年度入学科免除における東日本大震災 で罹災した入学者の取扱いについて</p>
--	---

◇ 第407回役員会

7月18日（木）

議 題

1. 教育職員の人事（教育学研究科：准教授1）について
2. ポイント外教育職員の配置について

◇ 第116回教育研究評議会

7月18日（木）

議 題

1. 岐阜大学研究行動規範の改訂について
2. 教育職員の任期を定める規程の一部改正について

◇ 第408回役員会

7月18日（木）

議 題

1. 岐阜大学研究行動規範の改訂について
2. 教育職員の任期を定める規程の一部改正について

◇ 第4回教養教育推進センター企画運営委員会

7月22日（月）

議 題

1. 来年度以降の英語のクラス分けについて
2. 全学共通教育科目における非常勤講師等の採用に関する申合せ（案）について

◇ 第4回国際戦略本部会議

7月23日（火）

議 題

1. 岐阜大学の国際化 policy と vision（案）について
2. 2014年度協定期間満了大学について
3. 平成25年度10月期学术交流協定に基づく短期交換留学生の受入について

◇ 第4回入学試験委員会

7月24日（水）

議 題

1. 工学部3年次編入学平成27年度入試の変更（案）について

◇ 第409回役員会

7月25日（木）

議 題

1. 平成26年度概算要求 産業動物臨床「現場体験+自学自習」実習システム開発【緊急追加分】について
2. 教育職員の人事（工学部：准教授1名，助教1名）について
3. 特任教員雇用事前協議について
4. 特任教員雇用申請について
5. 審査事案について

主要日誌

月 日	行 事 名
7 / 1	第 4 回教養教育推進センター業務実施委員会
2	岐阜県高等学校長協会と岐阜大学との懇談会
	第 2 回農学系博士教育国際連携円卓会議及び農学系研究国際シンポジウム2013 (～ 4 日)
3	第 2 回留学生センターラウンジチューター企画七夕まつり
4	第405回役員会 第37回岐阜大学フォーラム「企業経営から見るリーダーに求められる要件」
6	医学系研究科再生医科学専攻 (博士前期課程・推薦) 入学試験 工学研究科博士前期課程 (推薦) 入学試験 工学研究科博士後期課程 (秋季) 入学試験
10	看護学科・看護学専攻教授会議 (医) 教授会・代議委員会 (工) 教授会 (メディア)
11	第406回役員会 第 4 回部局長・部長会
12	代議委員会 (連農)
16	第 4 回大学教育委員会 研究科委員会 (連創)
17	海外渡航における危機管理オリエンテーション 教授会・研究科委員会 (教・地・応) 医学研究科・医学科教授会議 (医)
18	第407回・第408回役員会 第116回教育研究評議会
19	代議委員会 (連獣)
22	第 4 回教養教育推進センター企画運営委員会 第26回岐阜シンポジウム「エネルギー問題を考える スマートグリッドによる次世代エネルギーシステム」
23	第 4 回国際戦略本部会議
24	第 4 回入学試験委員会 教授会 (流域・生命)
25	第409回役員会
8 / 1	薬物乱用防止セミナー講演会「違法ドラッグはこんなに危険」 連合創薬医療情報研究科入学試験 応用生物科学研究科修士課程入学試験 (～ 2 日まで)